

の装置が基本となっており、それに独自の改良とアッセイシステムを加えたうえで、それぞれ微生物検査用、イムノアッセイ用として販売しているとのことである。

なおこの他に、Amersham 社(英)から96穴プレート型のユニークな装置(アマライト)が発売され、外国ではイムノアッセイだけでなく食細胞の化学発光測定にも利用されているが、残念ながら、今のところ日本国内で販売する予定はないそうである。

おわりに

以上、筆者の入手できたカタログから食細胞の化学発光測定にも利用できる比較的安価な装置を中心に紹介した。筆者の情報不足から、これ以外にも優れた装置を見落としている可能性もあるが、御容赦願いたい。なお他誌¹⁾でも最近の発光測定装置の動向が紹介されているので参照されたい。

ところで本誌では既に4年前にも一度、発光測定装置についての詳しい紹介がなされている。²⁾ 正直なところ、原稿を依頼されたときには今さら私の書くことができるのだろうかと少々不安であった。ところがいざ製品カタログを集めてみると、この分野の急速な発展を示すかのように、わずか4年の間に随分と様変わりしたのものも

あった。ユーザーにとって何よりも嬉しいのは、機能の充実に加え価格も下がっている装置が多いことである。

4年前の機器ガイドと比較してみるのもこの辺りの事情が分かって面白いかもしれない。なおこのガイドの作成にあたっては、4年前に掲載されている装置はすべて調査したので、今回の表に載っていないものは製造中止になったものと解釈していただきたい。

最後に、化学発光・生物発光に興味を持たれる読者のために絶好の本³⁾を紹介しておきたい。その名もずばり「化学発光と生物発光」と題するこの本は、現在「発光」と名のつく研究分野のすべてを網羅しており、この本1冊で発光に関する様々な分野の最新の知識を得ることができる。また実験例も豊富に載せてあるのでこれから実験を始めようと思っている人にも役立つようになっている。ぜひ一読をおすすめしたい。

参考文献

- 1) 今井利夫, ぶんせき, 653 (1989).
- 2) 前田昌子, ファルマシア, 21, 640 (1985).
- 3) 今井一洋編, 化学発光と生物発光, 広川書店, 1988.

新刊紹介

講座プロスタグランジン

2. 心, 血管と血小板

三島好雄ほか 著

今から約60年前に Kurzrok と Lieb によって精液中の子宮収縮物質として見出されたプロスタグランジンは、その多様な生理活性が次々と明らかにされ、膨大な生体系における役割についての基礎的な研究が行われるとともに、今日では医薬品としても実用化されている。本書は、これまでの様々な分野でのプロスタグランジンの研究を集大成し全8冊にまとめられた「講座プロスタグランジン」の第2巻心・血管と血小板である。プロスタグランジンは、心筋、血管、血液相互の連関に重要な生理的役割をになっており、すでにアラキドン酸カスケードの各種疾患の病態への関与が明らかにされ、最近では循環器血液疾患領域でも、動脈硬化、血栓症、高血圧症を始めこれらに起因する様々な循環器系疾患における役割も明らかにされつつある。本書では、アラキド

ン酸カスケードの循環系と血液における役割について、現時点までに明らかになっている点を総括し、さらに残された問題点を明らかにすることを目的としている。今回の編集担当は三島、内田両博士で、執筆陣は医、薬、農の分野から実に70名の多きが参加している。

本書は30章よりなり、これらが第Ⅰ部基礎、第Ⅱ部病態生理、第Ⅲ部 PG 製剤の臨床応用に分れている。図表も多くまた各章ごとの文献も充実しており、基礎から臨床応用までが網羅されていることは、基礎的研究者にとっても、応用の最先端である臨床医にとっても相互に従来ともすれば理解に欠けた部分を補うことができる極めて有用な書として活用が期待される。

(伊賀立二)

A 5 判/444頁/7,830円(東京化学同人)